

差出人: post-01132305-tarbou.nagase=nifty.com@post.freeml.com は "吉岡律夫(Th 熔融塩フォーラム)" <ritsuo.yoshioka@nifty.ne.jp> の代理

送信日時: 2019年1月5日土曜日 15:04

宛先: 様"

件名: [itmsf:1120] 長瀬隆会員の記事と、大槻義彦教授の件

木下理事長、NPO の皆様へ：

NPO 会員の長瀬隆さんが、小説『導く力ー救済の核エネルギー炉へ』を書かれ、同氏の HP に掲載されています。

<http://nagasetarbou.my.coocan.jp/>

90 頁ほどの長文で、全部を読んでいませんが、大槻義彦教授が 7 頁もの後記を書いています。

大槻氏は、オカルト撲滅のタレント扱いですが、元々「墓場の火の玉は物理現象」ということを解明し「世の中に怪しげなものは沢山あるが、自分で確認して、正しいものは正しい」という判断をされる方とっていました。

自分のことと比較するのもおこがましいですが、軽水炉設計に永年たずさわりの、1993 年に国際会議で、三田地先生・古川先生の論文を知り、自分で計算した結果トリウム熔融塩炉が優れている、という結論を得たのです。

FACT・FINDING（事実を発見・確認すること）が科学者の前提条件だと思っています。

大槻氏がトリウム熔融塩炉を支援している理由も同じと思います。

一度、研究会で「科学とは何か」というようなテーマで講演をお願いしたら面白いかと思っています。

2019-1-5、吉岡律夫

ML ホームページ: <https://www.freeml.com/itmsf>

-----